

第二部 シンポジウム ～AI時代における福祉社会～

2026年11月9日(月) 14:30-16:00

会場 東郷記念館

開催趣旨

現代の日本社会は、格差の拡大、人口減少、超少子高齢化、単身世帯の増加など、構造的変化に直面している。近年、AIをはじめとするテクノロジーの進展により、人々の日常生活はもとより、対人援助を中心とする福祉実践のあり方も変容しつつある。今後、AIの高度化や汎用人工知能の発展により、社会の変化が予想され、本学が養成する福祉人材には、テクノロジーを活用する一方で、テクノロジーでは容易に代替し得ない専門性をも備え、人々に寄り添い、そのウェルビーイングを支える力が求められる。

AIの進展によって、民主主義のあり方や人間が生きる意味ささえも問い直されつつある今、本学は創立80周年を機に、本学の理念とミッションを再確認する必要がある。『社大未来ビジョン』（2026年9月）は、人間の尊厳と人権を基礎に、誰もが幸福を実感できる共生社会の実現を理念とし、「福祉のリーダー」の養成をミッションとして掲げている。

本シンポジウムでは、本学の理念とミッションを踏まえ、AIと社会の関係をガバナンス・倫理・対話の視座から探究してこられた先生方の記念講演を通して、AI時代における福祉社会のあり方と、本学が果たすべき役割について考えていきたい。

プログラム

14:30~15:00	講演Ⅰ	須藤 修 東京大学名誉教授
15:00~15:30	講演Ⅱ	伊藤 亜紗 東京科学大学教授
15:30~16:00	トークセッション	菱沼 幹男 日本社会事業大学教授・社会福祉学部長（モデレーター）

司会 有村 大士 日本社会事業大学教授

講演Ⅰ



東京大学名誉教授
須藤 修

【プロフィール】

1955年生まれ、東京大学大学院修了（博士）。東京大学大学院教授、中央大学教授などを経て、現在、東京大学名誉教授、総務省「AIネットワーク社会推進会議」議長、OECD Expert Group on AI Futures 委員など。研究領域は社会情報学、医療情報学。

講演Ⅱ



東京科学大学教授
伊藤 亜紗

【プロフィール】

美学者。東京科学大学教授。博士（文学）。主な著作に『目の見えない人は世界をどう見ているのか』『手の倫理』など。第13回（池田晶子記念）わたくし、つまりNobody賞、第42回サントリー学芸賞、第19回日本学術振興会賞、第19回日本学士院学術奨励賞受賞。

トークセッション



日本社会事業大学教授
菱沼 幹男

【プロフィール】

2010年日本社会事業大学大学院修了 博士（社会福祉学）。同年、日本社会事業大学に教員として赴任し、2022年から教授。2026年より社会福祉学部長。主な著書「コミュニティソーシャルワーク」等。